



FOR THE FUTURE, FOR THE CHILDREN



令和8年度採用選考応募者対象

# 病院薬剤師の業務



資料の再配布を固く禁じます

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

埼玉県さいたま市中央区新都心1-2





## この資料の目的と注意事項

皆さんは、どのような病院で実務実習を行いましたか。大学病院でしょうか、それとも地域の病院でしょうか。実習先で経験した職場の印象は、その後の職業観にも大きく影響します。

しかし実務実習で経験できる病院は1か所だけです。

私たちが心配していることは、適切な情報を得られない状況で就職し、仕事とのミスマッチによって離職したり、納得できないまま働き続けることです。これは皆さんにも職場にとっても残念なことです。

そこで、この資料は皆さんが自分に適した就職先を見つけるにあたり、埼玉県立小児医療センターについての「正しい情報を伝え、正しい理解を得る」ことを目的としています。

この資料は、皆さんの就職活動を支援するために定期的に改訂を行っていますが、最新の情報については病院のwebページや、直接病院を訪問することで確認をしてください。また、**本資料の著作権は埼玉県立小児医療センターに帰属しますので、本資料の再配布については、かたく禁止させていただきます。**



# 埼玉県立小児医療センターの薬剤業務メニュー

病院紹介

症例・疾患の幅広さ

キャリア・専門性の向上

ワークライフバランス ①

ワークライフバランス ②

運営方針

追加の質問 ①

追加の質問 ②

追加の質問 ③

やりたいことができるか

当直・夜勤・休日 ①

当直・夜勤・休日 ②

専門知識・スキルが磨ける環境

チーム医療・多職種連携

雰囲気・人間関係

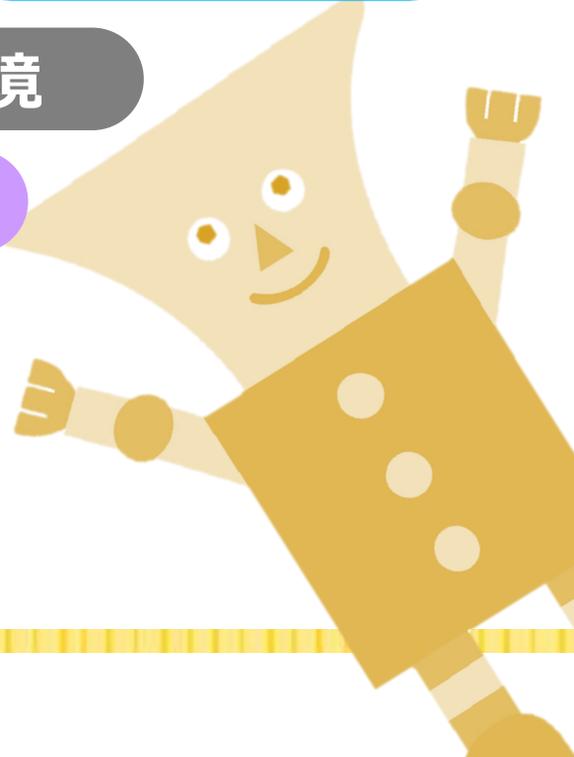
病院実習と就職の違い①

病院実習と就職の違い②

給与・待遇

研修・教育

採用情報



終了



FOR THE FUTURE, FOR THE CHILDREN



# 埼玉県立小児医療センターの紹介

## 病院紹介

## *For the future, for the children*

(こどもたちの未来は、私たちの未来)



- 埼玉県立病院機構を構成する病院

循環器・呼吸器病センター、がんセンター、小児医療センター、精神医療センター

採用は埼玉県立病院機構で行い、配属希望を聴取後に各病院に配属される  
病院間での定期人事異動あり

- 全国に**13**施設ある**小児専門病院**のひとつ

埼玉県における小児の**高度医療**と**政策医療**を担う  
運営の4本柱 (①専門医療、②保健、③発達支援、④教育)

最新情報はwebで…

病院見学（個別訪問）や体験コースの案内などの情報を掲載しています。

<https://www.saitama-pho.jp/scm-c/shokai/shinryo/yakuzai.html>





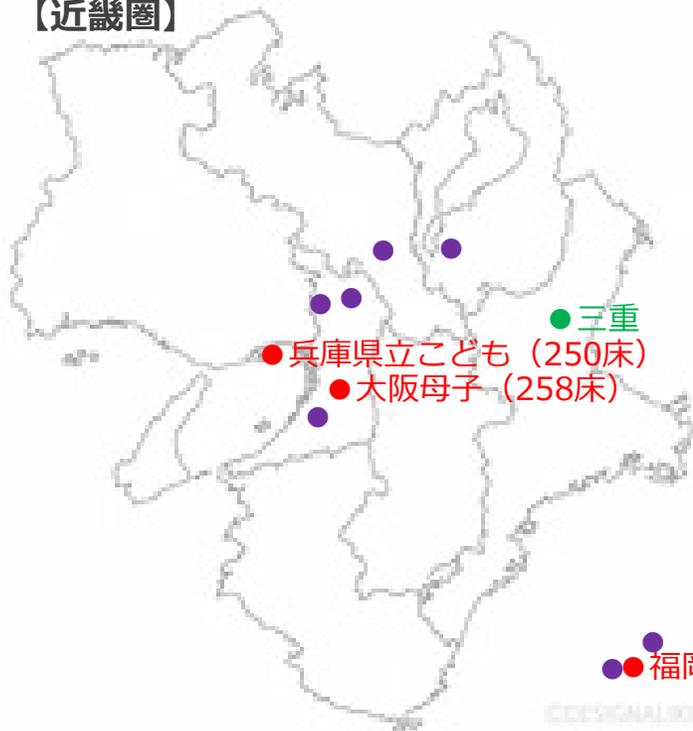
# 【参考】 全国にある主要な小児病院（配置図）

## 小児病床だけの病院は13箇所のみ

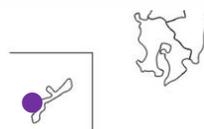
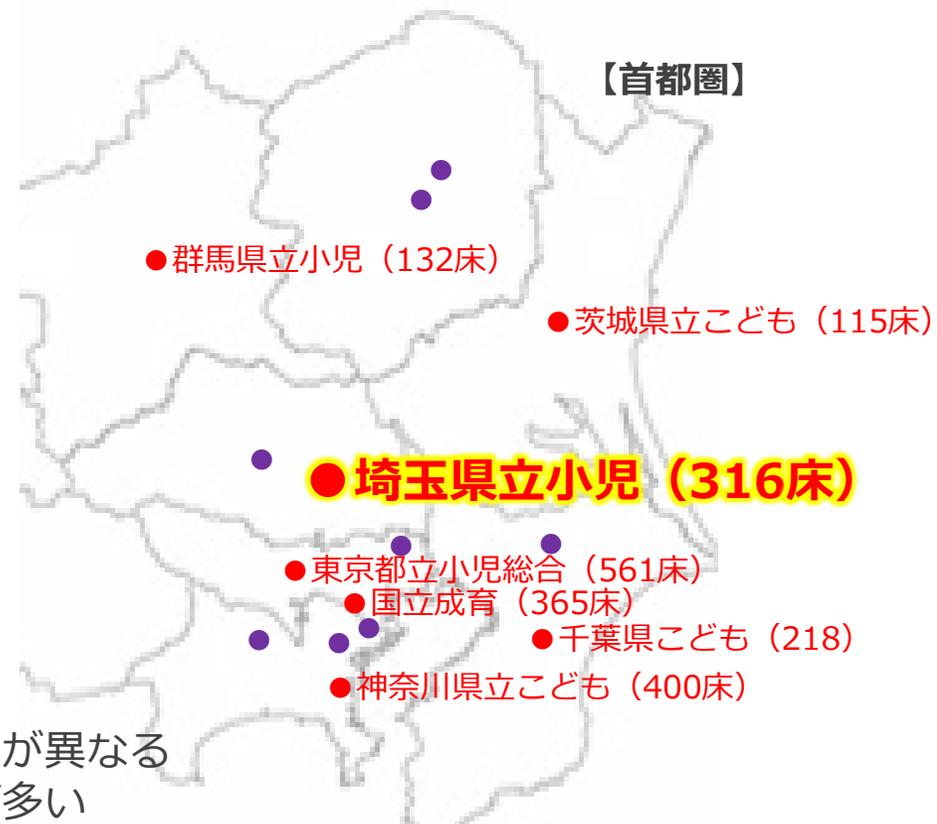
すべてが国や都道府県などの自治体が運営する病院  
 ( ) 内は小児病床数

- 小児専門病院（独立型） 13施設
- 小児病棟（併設型・療養型） 5施設
- 大学病院等の小児病棟（100床以上） 21施設

【近畿圏】



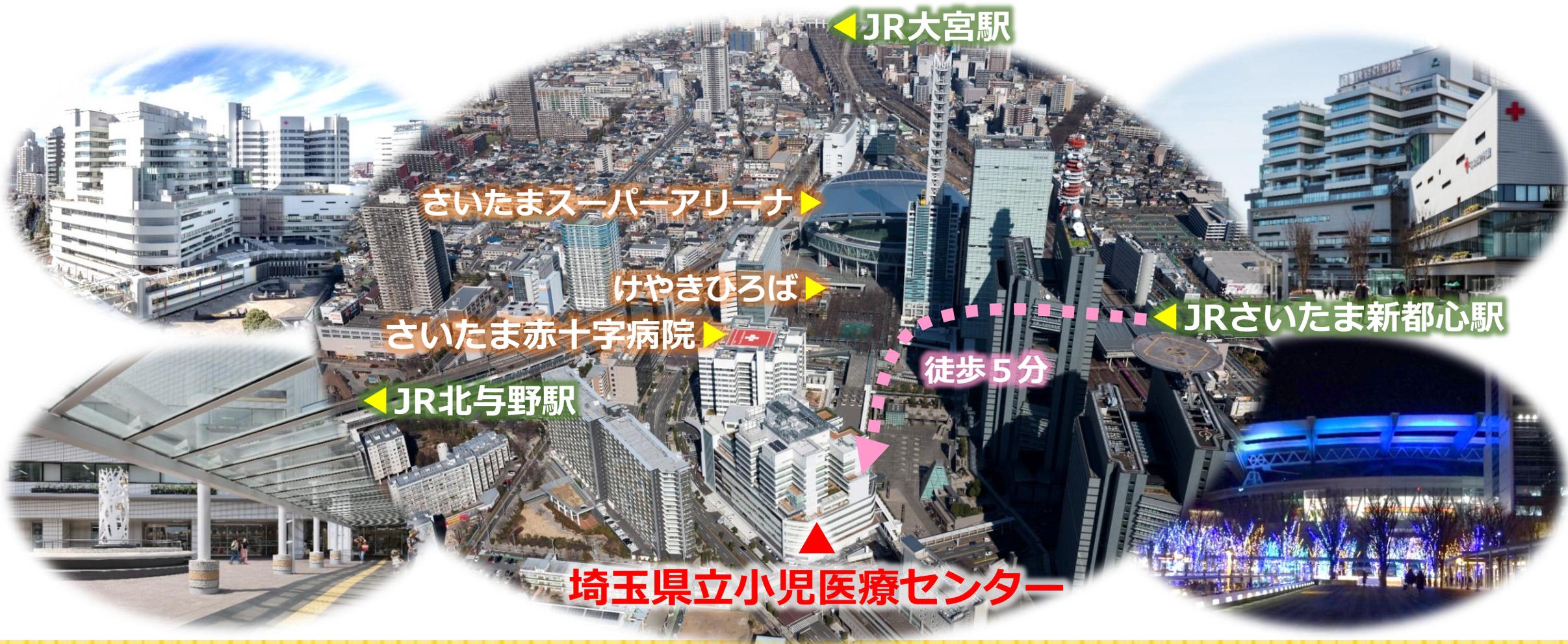
【首都圏】



自治体病院は民間病院とは機能と役割が異なる  
 高度医療と政策医療を担う施設が多い



# 【参考】埼玉県立小児医療センターへのアクセス





# 【参考】埼玉県立小児医療センターの院内風景



外来ラウンジ



玄関吹き抜け



外来診察エリア待合



スタッフステーションA



スタッフステーションB



## 病院機能と薬剤部の使命（業務内容）

- 病院の目的・機能（使命）  
小児の「**総合病院**」  
小児医療の「**最後の砦**」 → 高度急性期病院（1/3が集中治療病床）  
（急性期患者の状態の早期安定化に向け、診療密度が特に高い医療を提供する）
- 患者の特性 → 稀少疾患や合併症を持つ患児が多い  
新生児（500g）～10歳前後～40歳代  
こどもの**成長と発達**に応じた**多様な薬物療法**を提供
- 薬剤部の目的（使命）  
**小児薬物療法の安全と適正化に責任を持つ**
- 薬剤部の組織 （※令和8年度は2名の増員予定あり）  
常勤薬剤師**33名**、**二交代勤務**（夜勤あり）（夜間休日は1名、平日日勤は約30名）
- 薬剤部の業務（小児薬物療法の特徴を反映した業務内容）  
調剤、注射、製剤、**医薬品情報**、薬品管理、薬剤管理指導業務（服薬指導）  
病棟薬剤業務（10病棟で実施）、**チーム医療**、**小児治験**

小児の**総合病院**

小児医療の**最後の砦**

患者の**多様性**

**多様な薬物療法**



## 【参考】薬剤業務の例示（中央業務・病棟業務）



散剤調剤室



手術室の薬剤管理



医薬品情報室



注射薬の取り揃え



IVHのミキシング



抗がん剤のミキシング



## 【参考】小児医療と成人の医療の比較

### 新生児から成人までの**多様な薬物療法**が行われる

- 散剤の割合が**50%以上**で、調剤の手間と時間は**成人の3～5倍** → **高リスク!**
- 小児用の医薬品が少なく、**成人の医薬品を加工して調剤**する
- 薬物療法のエビデンスとなる**医薬品情報が少なく、情報の収集と利活用が課題**

	小 児	成 人
患者の年齢	0歳～15歳頃	—
患者の体重	500g～60kg（～100kg）	～60kg～
代謝能力	臓器の成熟度＋腎機能・肝機能に影響	腎機能・肝機能の影響
投与剤形	散剤（液剤）～錠剤	錠剤・カプセル剤
運動機能	成長（年齢）で差がある	—
理解力	発達段階に差がある	—
支援の有無	自己決定ができない場合が多い	自己決定できる



## 【参考】小児薬物療法には**難しさ**と**やりがい**が同居する

### 小児は『**Therapeutic Orphan**』

小児に処方されている医薬品の約70%は、小児に不十分!

- 【調剤】 こどもの成長・発達 → **複数の剤形や規格が必要**  
散剤が多く、年齢や体重、発達段階に応じた調剤を行う  
小児用剤形がない場合は錠剤粉砕などの剤形破壊を行う
- 【注射】 医薬品の一部を使用 → **微量かつ精密な操作が必要**  
投与量や投与速度、併用薬、溶解・希釈方法まで確認する  
抗がん剤・IVHは、mg・mL単位での無菌操作を行う
- 【医薬品情報】 小児の医薬品情報は少ない → **Off Label**の治療が行われる  
小児薬物療法に関する情報収集と評価・利活用に取り組む
- 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務、チーム医療  
多様な年齢や発達段階、病態の患者に対応した業務に取り組む

知識の量より、質と  
応用力が試される!

薬物療法の正解は、  
ひとつとは限らない





# 薬剤部が大切にしている**価値観**

あなたは…、  
小児医療に向いてる？

幅広い年齢層と発達段階に対応した薬物療法

➔ **正解はひとつではない**（患者に寄り添う）

小児は『 Therapeutic Orphan 』

➔ **決まり事どおりではない**（適応外使用・不採算性）

多様な薬物療法

多様な年齢と発達段階に応じた薬物療法  
に触れる体験は…  
小児病院でしか経験できない

情報収集力と評価・**提案力**

与えられたこと、決められたことだけを  
やっているのは、解決できないことが多い！

**患者のために何が出来るか…**

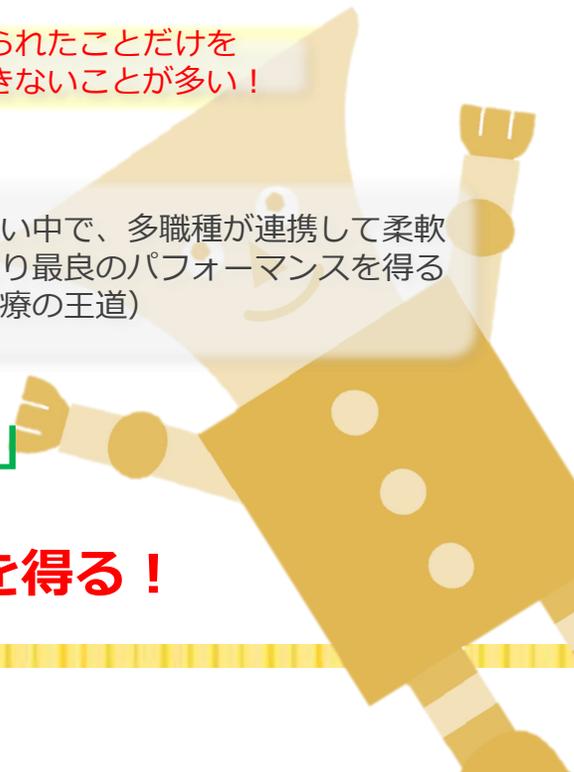
**アウトカム重視（課題を解決して前に進む）**

情報が少ない中で、多職種が連携して柔軟  
な発想により最良のパフォーマンスを得る  
（チーム医療の王道）

薬剤部の職員全員が共有している**価値観**

薬物療法に責任を持つ「**熱意**」と「**応用力**」そして「**行動力**」

**多くの選択肢を持ち、患者の多様性に応じた、最良のアウトカムを得る！**



必要なものは…  
**熱意**と**応用力**

そして…  
**実行力**

## 【参考】小児医療センターでの**人財育成**

- 初期教育期間は60か月 (Generalist教育3年→Specialist教育2年)

LV1 : **即戦力**育成  
LV2 : **基礎力**育成  
LV3 : **総合力**育成

小児薬物療法認定薬剤師研修

LV4 : **専門性**育成

正解のない薬物療法を実践  
できる**人財育成**を目指す  
(研修・学会・図書やDBの整備)

どこでも通用する薬剤師に！

◀ 能力開発・仕事の幅を広げる      人財育成・タレントマネジメント ▶

(職位)		即戦力育成	Generalist 育成	Specialist 育成	Middle Manager 育成					
副部長・部長				【人財育成プログラム】	人と組織を動かす	経営・危機管理				
副技師長				目標に向かって行動する	業務マネジメント					
主任			【業務リーダー】	自律した行動ができる	チームマネジメント					
技師	夜勤ができる 原則として、経験のある 職員の支援を要する	夜勤ができる 医療人の倫理	【個人の成長】 個人の成長 病棟担当になる 病棟で活躍する ⇒ 薬剤師として『個人の実績』を築く	専門性を高める 専門認定の取得を目指す 小児薬物療法認定薬剤師 (4年目)	引き出しを増やす	マネジメント力の育成				
			中央業務を学ぶ (定例業務)	中央業務を深く学ぶ (定例業務⇒非定例業務) 病棟業務と中央業務を連携する	後輩のロールプレイモデル	人的資産を業務に活かす				
フェーズ			接遇・コミュニケーション 組織力を培う	人の繋がり強化する						
ラダーLV		医療人としてのコア形成期	多職種コミュニケーション形成期	自己実現期	個人より全体に責任を負う					
		LV1	LV2 前期	LV2 後期	LV3	LV4	LV5	LV6	…	LV99
		6か月	12か月	18か月	36か月	60か月				
新採育成期間		試用期間	初期研修期間	中期研修期間	後期研修期間	Generalistの基礎形成				
			調剤・注射・ミキシングだけでなく、病棟業務や 服薬指導、薬品管理や医薬品情報も経験する			他病院に移動しても経験が活かせる 異動先でゼロからの再出発としない				



## 【参考】薬剤部で進行中の取り組み（ロードマップ）

主語は何か…  
自分？・病院？

薬剤師にしかできない業務に注力！

- **病棟薬剤業務と医療DXへの対応・経営面への貢献**  
病棟薬剤師による医師業務のタスクシフト・シェア  
**薬剤師固有の業務**のさらなる推進（薬剤師の存在感を高める）  
**システム化・機械化**による効率化（作業的労働の削減による働き方改革）  
**病院経営**への貢献（モノからひと➡そして経営へ）
- **医薬品情報の充実（弱みを強みに変える）**  
小児薬物療法を軸とした**医薬品情報の利活用**  
**地域連携**（情報共有、在宅医療、トレーシングレポート活用）
- **人材育成など**  
育成した**人財**が働き続けられる**職場**（業務に子育て経験を活かす）  
**実務実習・インターンシップの充実**（小児領域が得意な薬剤師を増やす）  
**マネジメント・マーケティング能力に長けた薬剤師の育成**





# 小児医療に興味のある方は、病院訪問を推奨します！



- 個別訪問

- 予約制（1回1名）

- 原則として、平日の火曜日～木曜日の午前中（10:00～11:30）に実施

- 【申し込み方法】

- ① 訪問可能な候補日（複数日）を決める
    - ② 病院webページの「[お問い合わせフォーム](#)」から申込む
    - ③ 人事担当から確定した訪問日を連絡

- 【お問い合わせフォームのURL】

- [https://www.saitama-pho.jp/scm-c/shokai/shinryo/yakuzai/yakugakusei\\_shakaijin.html#yakugakubukengaku](https://www.saitama-pho.jp/scm-c/shokai/shinryo/yakuzai/yakugakusei_shakaijin.html#yakugakubukengaku)

- インターンシップ（薬学生のための小児薬物療法1日体験コース）

- 年に2回（8月と11月）に薬学部5年生対象とした小児病院での職業体験を開催  
詳細は[病院のwebページ](#)でお知らせ



FOR THE FUTURE, FOR THE CHILDREN



こどもたちの未来のために…

*For the future, for the children*  
こどもたちの未来は、私たちの未来



私たちと一緒に未来を築きませんか！





# テーマに関するQ&A

## 病院実習と就職の違い①

### ● 病院実習と就職の違い

「実習」

文部科学省の薬学教育カリキュラムにしたがって行う実務教育  
あくまでも**授業**の一環 + **???**

「就職」

職を得て勤めること（就労）⇒事業所との**労働契約**  
契約にもとづく労働で**職場や業務とのマッチング**が重要

### ● あなたは **???** に何を期待する？⇒**授業の延長ではもったいない！**

病院の規模や機能は千差万別（病院によって学べることは違う）

① 薬剤師の**働く姿**を見る

② 薬剤師に**尋ねる (ask)** ⇒メンターの**薬剤師から本音を聞き出す**

共感できる部分はあるか？

③ 自分が**なりたい薬剤師像**を考えてみよう

④ そのためには**何が必要か**考えよう

⑤ **キャリアデザインとライフデザインは不可分**⇒何を優先するか（現実解は）





# テーマに関するQ&A

## 病院実習と就職の違い②



### ● 小児医療センターの+ ???

- ① 薬剤師の働く姿 → 成人の病院とはかなり違う
- ② 薬剤師に尋ねる → 聞く (hear) ではなく、尋ねる (ask)  
各カリキュラム担当の薬剤師にいろいろと尋ねる (本音を聞き出す)

業務の大変なところ・面白いところ・やりがいと感ずるところ  
先輩薬剤師の夢や理想・大事にしていること  
今、主体的に取り組んでいること

共感できる部分があれば…あなたは小児病院の薬剤師に向いているかも

- ③ 自分の将来像 → 働いている自分の姿を想像してみよう
- ④ 自分に必要なもの → 具体的なもの (知識、資格、ITスキル、語学力…)
- ⑤ 計画を立てる → 何を優先するか (現実解を探す)

### キャリアデザイン < ライフデザイン

夢を追い続けられるか  
経済的な裏付け





## テーマに関するQ&A

## 症例・疾患の幅広さ

- 全国に**13施設**しかない**小児専門病院**のひとつ（病床数では5番目）  
316床のうち1/3以上が集中治療病床である**高度急性期病院**  
20科以上の診療科を有する「**こどもの総合病院**」

「ちいさなこども」のイメージで業務を連想していませんか？

- 運営の4本柱：**医療**だけではない！

①**高度専門医療**、②**保健**（自治体と連携）、③**発達支援**、④**教育**

これを支える多彩なスタッフが在籍し、病院内外で連携して**チーム医療**を実践

学ぶことも多いが  
できることも多い！

- 診療対象（症例と疾患）

乳幼児が多数だが、**新生児から成人（中高生）**までの**幅広い年齢層**が対象

小児の第三次医療機関で、**難病や稀少疾患**などの症例が多く集まる

→地域の医療機関で対応可能な疾患は相対的に少ない傾向

患者の年齢や発達段階が異なり、**薬物療法のアプローチは多様**

→最新の**幅広い薬物療法**に触れることができる

知識だけでなく、  
運用力が試される！



## テーマに関するQ&A

## キャリア・専門性の向上

- **キャリア形成の支援**→**病院に貢献する人材を育成+自己実現**  
**認定取得や研修会・学会にかかる費用支援あり**  
薬剤業務に関係する**研修会や学会の参加費・旅費の支給**など  
支援対象者は**立候補制（職位不問）**で、**やる気のある職員を応援**  
業務に支障がない範囲で、**予算内なら参加回数に制限なし**  
認定取得による手当や昇給・昇格は無し  
**研修会や学会の参加後に成果報告を義務づけ**
- **専門性の向上=プロフェッショナルになる**（豊富な知識量→**実践できる**）  
**先進医療技術視察研修（病院の事業）**  
**小児薬物療法認定薬剤師の取得支援**（薬剤部の取り組み）  
**人材育成プログラム**の4年目のマイルストーンとして認定の取得を支援  
**その他の専門認定取得の支援**  
NST専門療法士、情報処理、Quality managerなど



## テーマに関するQ&A

## ワークライフバランス ①

- 薬剤師の作業的労働を減らして**薬剤師固有の業務**に注力  
専門的な判断が不要な作業的労働を、**機械化や非薬剤師・SPDにタスクシフト**  
注射薬自動取り揃え装置（1）、**散薬自動調剤ロボット**（2）  
調剤支援システムの導入による手順の統一で、**安全確保と業務負担の軽減**  
散薬調剤システム（2）、水剤監査システム（1）  
抗がん剤混注監査システム（2）  
データ処理システムの活用による、**集計や分析にかかる作業の自動化**  
RPA、DWH、医療用生成AI（導入予定）
- 時間外勤務（**病院の役割から定時に業務が終了することはない...**）  
担当業務により差があるが19時頃まで（時間外手当は100%支給）  
【実績】1か月あたり平均**17時間**（令和6年度実績）  
子育て世代の時間外勤務は、平均**19時間**  
職位が上がるほど事務的な業務が増えて時間外が多くなる傾向





## テーマに関するQ&A

## ワークライフバランス ②



### ● 休暇の取得状況

業務に支障のない範囲で、職員の**希望する日に取得可能**

週休2日制（1月あたりの勤務は約20日、休日は約8日）

年間休日125日前後  
+  
休暇20日前後

【実績】職員1人あたりの平均※ → **約20日**

**年次休暇10.1日**（令和6年度実績）20日付与・労基法の取得義務は5日

通年勤務する職員の平均（※退職者の休暇消化や産前休暇は含まない）

**夏季休暇5日**（令和6年度実績）取得可能日数5日（**100%取得**）

**リフレッシュ休暇3日**（令和6年度実績）取得可能日数3日（**100%取得**）

### ● 子育て世代の支援

**子育て休暇5.5日**（令和6年度実績）

義務教育以前の子の学校行事や看護に対して取得可能  
対象となる子の人数で7日または10日（2人以上）

子育て世代の職員は**33人のうち8人**（女性4、男性4）





## テーマに関するQ&A

## 運営方針

- 職員の**自発的な行動**を促す【**自立→自律・共同→協働・想像→創造**】  
小児病院の薬剤業務は**型どおりの業務ではない**（教科書に答えはない）  
職員の**自発的行動（工夫や提案）**が薬剤部の**原動力**
  - ① 薬剤師の**職能を活かす**→薬剤師の作業的労働を減らす  
機械化・システム化・非薬剤師へのシフト
  - ② 一般職員は**担当制**（グループ・チーム）で、業務は勤務時間内に完結させる
  - ③ 業務ローテーション制（3か月～1年単位）で幅広い分野を経験
  - ④ 部内ワーキンググループにより、部内で横断的に活動
  - ⑤ 自由に意見を言える環境  
意見や成果物はグループウェアで公開・共有
  - ⑤ 能力主義で人事評価に反映
  - ⑥ 自発的に行動する（学ぶ）職員を応援  
業務環境や図書・資料を整備、人材育成プログラム





## テーマに関するQ&A

### 追加の質問 ①

- チーム医療で他職種から薬剤師に求められることは何か？  
基本的に**病院によって差が大きい**  
規模が大きく人材がいれば、**薬剤師本来の仕事**ができる  
規模が小さい場合は、**他職種のタスクシフトが多い**かもしれない
- 埼玉県立小児医療センターの場合  
小児の専門病院のため**人材は充実している**  
小児専門医を目指す若い医師が多く、コミュニケーションも活発  
**他職種がカバーできない薬学的な関与**が求められる  
薬剤部の目的は「**小児薬物療法の安全と適正化に責任を持つ**」  
病棟に薬剤師がいることで、**心理的安全性を確保**する  
すべての医薬品に**薬剤師の目が届いている**  
何かあったら**薬剤師に相談できる**  
これが、小児医療センター薬剤部の業務ポリシー



## テーマに関するQ&A

### 追加の質問 ②

- 病院薬剤師を目指すにあたり、学生のうちからしておくべきことは何ですか？

熱意と覚悟を持つ  
コミュニケーション  
一般教養を養う  
特技を持つ  
主体的に行動する  
情報収集力

病院薬剤師として生きていく**目的や動機を明確にする**  
業務のほとんどが**対人業務**である  
資料や企画書・論文など、**文章作成の機会が多い**  
自分の**アイデンティティ**を持つ  
受動的な人物は**チャンスを逃す**  
**時代の変化を知る**（ただし情報に振り回されない）

- 小児医療センターの場合

**こどもが好き**であること  
**立場の違う人（他職種）とのコミュニケーション**がとれる⇒**熱意・交渉力**  
自分の**存在感を示せる特技（能力）**がある⇒将来的に作業的労働は減る  
**応用力・運用力**がある⇒小児の薬物療法は型どおりではなく多様性がある  
**自己変革**ができる⇒将来の変化に対応して生き残る力強さがある





## テーマに関するQ&A

### 追加の質問 ③

- 病院実習と就職の違い（実習先では見えない「就職で本当に必要なこと」）  
年間に10名の学生を受け入れているが、**実習の評価と採用選考の評価は別物**  
➔結果として、**実習で評価の高かった人が合格している**  
理由は、**マッチング**ができていること  
①能力、②勤務条件、③職場環境  
理想を追わず現実的な選択をしている（事前の情報収集が大切）
- 小児医療センターに入職する職員の特徴
  - ① **小児医療に携わりたい**➔全国の小児病院と比較（条件や業務）  
➔同じ小児病院でも業務内容は施設ごとに異なる  
職員の出身地は埼玉県内以外にも広域
  - ② **首都圏出身で埼玉県の公立病院に就職を希望する人**  
➔職住接近、安定志向の人、結婚後も育児をしながら働きたい人  
➔大規模病院志向やキャリア形成優先、転職が前提の人は少数派





## テーマに関するQ&A

## 採用情報

- 埼玉県立病院機構（専門病院4施設を運営）

- [埼玉県立循環器・呼吸器病センター](#)（熊谷市）
- [埼玉県立がんセンター](#)（伊奈町）
- [埼玉県立小児医療センター](#)（さいたま市中央区）
- [埼玉県立精神医療センター](#)（伊奈町）

- コメディカル職員の採用情報

**埼玉県立病院機構で一括選考（一次選考+二次選考）**

➡詳細は[埼玉県立病院機構](#)のwebページで確認してください

- 採用予定人数は**年度により異なります**（採用人数=欠員数+増員数）  
全体の採用予定数だけでなく、病院ごとの採用予定人数も提示  
採用選考の過程で配属先の希望聴取あり
- 採用日程：募集（3月）➡選考（5月）➡合格（7月）➡配属（12月）
- 人事異動：あり



## テーマに関するQ&A

### やりたいことができるか



- やりたいことができるか？  
それは…あなた次第！
- その理由は…  
小児医療では、こどもの**成長**と**発達段階**に応じた**多様な薬物療法**が必要  
このため「**型どおり**」の業務は存在しない  
学んだこと、教わったことが、そのままの形で実現できることは少ない  
薬剤師としての**熱意と経験・倫理に根差した行動が評価**される
- 職場の役割⇒職員を**人財**にすること  
職員が最高のパフォーマンスを発揮できる**環境を提供**する
- あなたの役割⇒社会に**貢献**すること（結果として自己実現を達成する）  
**目的意識を持って主体的に学ぶ**  
**多くの経験をすることで選択肢（可能性）を増やし、仕事の幅を広げる**





## テーマに関するQ&A

### 給与・待遇

- **給与（初任給）**  
**289,000円**【6年制大卒の場合】（令和6年度実績）  
支給要件に該当する職員には扶養手当、住居手当、通勤手当等が支給
- **賞与（ボーナス）**  
期末・勤勉手当が**年2回**（夏・冬）に**年間4.60月分**が支給（令和6年度実績）
- **休暇等**  
**年次休暇**：年間20日（4月採用の場合は年末までに15日）  
**特別休暇**：夏季休暇（5日）、リフレッシュ休暇（3日）、子育て休暇、など  
**育児休業・育児短時間勤務等の制度あり**
- **健康保険**  
共済組合（健康保険、厚生年金保険）→埼玉県職員と同じ健康保険に加入  
雇用保険、地方公務員災害補償制度



## テーマに関するQ&A

### 当直・夜勤・休日 ①



- **勤務時間**  
8:30～17:15（月～金曜日）、休憩は原則12:00～13:00（60分）  
（1か月を平均して）**1週あたり38時間45分（5日勤相当）の勤務**  
時間外勤務には時間外勤務手当を支給（100%支給）
- **夜勤（当直）**  
**あり（1か月あたり2回程度）**  
休日に勤務（日勤・夜勤）をした場合は代休あり  
夜勤は二交替制勤務制（準夜と深夜を連続）で、土日・祝日の勤務あり  
採用後半年以内（8月が目安）に夜勤を開始  
最初は平日の夜勤から始まり、年末までに休日日勤を行う
- **休日**  
**4週につき8日（週休2日） + 祝日および年末年始**





# テーマに関するQ&A

## 当直・夜勤・休日 ②



- **日勤だけの場合**（年間で約240日勤務する = ●の数は年間で240個）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
深夜勤						休暇	休暇
日勤	●	●	●	●	●		
準夜勤							

- **夜勤がある場合**（●の数は年間240個だが、その一部を日勤と夜勤に割り振る）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
深夜勤			●	休暇 (指定休)			休暇
日勤	●				●	●	
準夜勤		●					





## テーマに関するQ&A

## 専門知識・スキルが磨ける環境



- **充実した環境**  
専門性の高い医療スタッフとのチーム医療が実現  
常勤薬剤師は33名  
**100床あたりの薬剤師数は10名を超える**（令和7年1月時点）  
現在、周産期以外の10看護単位に病棟薬剤師を配置  
令和8年度にすべての病棟（13看護単位）で病棟薬剤業務を実施予定
- **高度医療・専門医療の提供（小児の第三次医療機関「最後の砦」）**  
高い専門性を有するスタッフと最新の設備（稀少疾患、生体肝移植など）  
**周産期（新生児）、小児救急（ER・PICU）**  
**小児がん（小児がん拠点病院）、災害医療（災害拠点病院・DMAT）**
- **小児薬物療法認定薬剤師の認定取得**  
小児薬物療法に精通した薬剤師はまだ少なく（1,000名程度）、需要も大きい  
専門医療機関連携薬局の対象疾患が「小児」拡大される可能性もある



- 人材育成プログラム（薬剤部独自）⇒OJTを基盤に主体的に学ぶ職員を応援

### Generalist育成（1年目～3年目）

06か月まで	夜勤ができるようになる
12か月まで	調剤と注射の定例業務の全体を経験する
18か月まで	病棟薬剤チームに配属
36か月まで	業務ローテーションですべての薬剤業務を経験

### Specialist育成（4年目～5年目）

48か月まで	小児薬物療法認定薬剤師養成研修を受講して認定を取得
60か月まで	病棟薬剤業務を中心に専門性を高める（2領域以上）▶

- この他の教育・研修

部内学習会（新規医薬品の採用時、治験薬取扱手順、テーマ別学習）  
埼玉県職員との合同研修（新採時、2年目、主任や主査等に昇任時）  
院内研修（医療安全、感染症、救急対応、ハラスメント対応、など多数）



## テーマに関するQ&A

### チーム医療・多職種連携

- チーム医療

病院の規模や薬剤師の職員数の関係から、**専従の薬剤師はいない**業務扱いとなるが、業務時間内だけでなく時間外に参加することもある

- 薬剤師がメンバーの構成員で中心的な役割を担っているチーム医療

**認定資格**を有しているか**認定取得を目指している職員**が参加しているメンバーの選出は職員の意思表示を優先する（重複参加あり）

ICT（感染制御チーム）	3名
AST（抗菌薬適正使用支援チーム）	3名
CPT（緩和ケアチーム）	2名
NST（栄養サポートチーム）	3名（認定取得者あり）
医療安全・リスクマネージャー	3名（研修受講者あり）

- これ以外にも、必要に応じて薬剤師が参加するチーム医療がある





## テーマに関するQ&A

### 雰囲気・人間関係

- 職員構成

若い世代が多く、**職位や権威勾配を意識する必要がない**職場

**卒後10年以内の職員が半数以上**の明るい職場

60代（1）、50代（1）、40代（4）、**30代（14）、20代（13）**

女性職員は、**常勤薬剤師33人のうち22人（66.7%）**（令和7年度1月時点）

- 勤務体制

**二交代勤務**のため、**業務を固定せず定期的なローテーション**を行う

業務の属人化を最小限にして、**職員間のサポート体制を構築**している

- 子育て世代が多い（**33人のうち8人＋育児休業2人**）

子育て世代に対する**理解がある**（子育て世代があたり前に働いている職場）

子育て世代も**休暇が取りやすい**

夜勤にも配慮あり（夜勤の代わりに休日日勤に割り当てる、など）



FOR THE FUTURE, FOR THE CHILDREN



こどもたちの未来のために…

***For the future, for the children***  
**こどもたちの未来は、私たちの未来**

**ありがとうございました！**

